

事業報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

一般財団法人教育支援グローバル基金

1. 主要な事業の成果

一般財団法人教育支援グローバル基金は、2021年4月から2022年3月に、日本全国の高校生、大学生を対象とした人材育成事業「ビヨントゥモロー」を開催した。

(1) 奨学金事業

1. エンデバー2021: 児童養護施設などの社会的養護の施設および里親家庭に暮らす高校生を対象とし、進学準備に際する費用(センター試験受験料、入学検定料など)を年間上限10万円の給付型の奨学金として支給する事業を実施した。

2. ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2021:

親との死別・離別を経験している、児童養護施設・里親家庭・生活保護受給世帯に暮らしている、などの困難を経験しながらも、高校卒業後に進学し、社会の力となるべく研鑽を積むことを志す若者たちこそ、今後、人の心の痛みに想いを馳せ、世界や日本のために行動するリーダーになる資質を有しているという理念の下、進学のための奨学金(返済不要)年間50万円を給付。モルガンレイス・バックアス法律事務所からのプロボノ協力の下、応募要件(保護者が死亡、単親家庭である、児童養護施設に暮らしている、里親家庭に暮らしている、生活保護受給世帯に暮らしている、のいずれか)を満たしていることの確認を法的書類によって行った。

3. ジャパン未来フェローシップ・プログラム 2021:

上記2. のジャパン未来スカラシップ・プログラムを過年度に修了した者で、継続してビヨントゥモローの活動に参加することを希望する者を対象に、年間を通じて各種リーダーシップ・プログラムへの参加機会の提供や、キャリア構築にむけた実践的スキル構築のためのサポートを行う「ジャパン未来フェローシップ・プログラム」を実施した(本プログラム参加者には奨学金給付は行っていない)。

※上記事業の実施以外に、2022年度の奨学金事業の告知・選考活動を2021年度に行った。

(2) リーダーシップ・プログラム事業

2020年度に引き続き、2021年度においても、新型コロナウイルスの影響により、全国各地から奨学生が一同に会す対面プログラムの実施は慎重な判断が求められたため、オンラインでの活動と対面プログラムをハイブリッドで実施していくこととした。例年では年に3~4回の対面プログラムの開催のみであったが、月次のオンライン・プログラムを実施することで、より高い頻度で仲間同士の交流を行い、学びの機会を提供することができた。また、感染防止対策を徹底したうえでの対面プログラムを2回開催した。

a. 5月スプリング・プログラム 2021

2021年5月14日~5月16日(オンライン)

1年間に渡る奨学金事業「エンデバー2021」に参加している高校生、同「ビヨントゥモロー ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2021」及び、同「ジャパン未来フェローシップ・プログラム 2021」に参加している大学生を対象に、3日間のオンライン・プログラムを行い、自らの人生や将来、社会での役割について考えるための機会提供を行った。また、視野の拡大や様々な価値観に触れるための、ゲストを招いたスピーカーセッションや社会課題に関するディスカッション、プレゼンテーション等を行った。

b. エンデバー オンライン・プログラム 2021

2021年6月~2022年2月(オンライン:月次で7回開催)

エンデバー2021参加者(以下、エンデバー)を対象とし、月1回のペースで2時間のオンライン・プログラムを実施した。各回とも、様々な分野で活躍するゲストスピーカーによる講演や、ジャパン未来フェローシップ・プログラム参加者(以下、フェロー)によるセッションを通して、自分の将来やキャリア、社会について考え、自己探求を行った。

- c. スカラーオンライン・プログラム 2021 2021年6月～2022年2月(オンライン:月次で8回開催)
ジャパン未来スカラーシップ・プログラム 2021 参加者(以下、スカラー)を対象に、エンデバーオンライン・プログラム 2021 と同様に、月 1 回、2 時間のプログラムで実施した。スカラーは大学・専門学校 1 年生が対象であるため、「世界に視野を広げる」をテーマとし、「ジェンダー平等」や「グローバルサプライチェーン」、「ヤングケアラー(子どもの権利・労働)」、「移民・難民」など、グローバルな課題を 2 回のプログラムにわたって学んだ。フェローによる課題提起のレクチャーにはじまり、自らリサーチした他国の現状をプレゼンテーションしたほか、国際機関からのゲストを迎えた講義、ディスカッションを実施した。
- d. フェロープログラム 2021 2020年8月～2021年3月(オンライン+対面)
エンデバー・スカラーの卒業生であるフェローには、前述の b. 及び c. のオンライン・プログラムに、企画の段階から運営側として参加して貰うことで、教育プログラム運営の機会提供を行った。フェロー独自のプログラムとして、ビヨンドトゥモロー参加学生限定の YouTube チャンネルの開設と配信、卒業生コミュニティの運営、同窓会の企画、運営に携わってもらい、ビヨンドトゥモローの卒業生とのコミュニティを拡大、強化するための活動に取り組んでもらった。3 月には、年間の活動の総まとめとして、各自の取り組みをプレゼンテーションした。
- e. サマー・プログラム 2021 2021年8月20日～22日(東京都)
2021 年度で初めての対面でのプログラムを 8 月 20 日～22 日の 3 日間で実施した。新型コロナウイルスの感染者数が減少に至らず、緊急事態宣言下での開催となった。参加者全員の事前・事後 PCR 検査実施や、会場の国立オリンピック記念青少年総合センターの感染症対策を遵守のうえ、プログラム内容を縮小、参加も任意とした上で開催し、13 名の参加があった。加えて、3 名がオンラインで参加し、「変化とレジリエンス」についてディスカッションと提言発表を行った。最終日には、ビヨンドトゥモローの 10 周年記念イベントとして、卒業生のパネルディスカッションの実施のほか、卒業生制作の記念動画を上映した。
- f. クロージング・プログラム 2021 2022年3月12日(オンライン)
エンデバー、スカラーを対象に、一年間のプログラムのまとめとして「クロージング・プログラム」を実施した。それぞれの活動の総まとめとして、これまでの活動を振り返り、個々の変化や成長を仲間と共有しあった。また、1 年間の学びを糧として、これからの目標をプレゼンテーションした。卒業生からは卒業生コミュニティの案内を行い、誰もが、いつでも戻ってこられる関係であることを伝えた。当財団代表理事からは、1 年間オンラインを中心に学びを続けた学生にむけて、はなむけの言葉が贈られた。
- g. 3 月オリエンテーション・プログラム 2022 2022年3月19日(オンライン)
エンデバー2022、ジャパン未来スカラーシップ・プログラム 2022、インターンシップ・プログラム 2022 の参加者全員を対象に、年間プログラムへのオリエンテーションを行った。ビヨンドトゥモローについての理解を深めると共に、オンライン上で今年度の奨学生が顔を合わせ、互いを知ることで、仲間たちとの信頼を築き、今後の 1 年間、自分たちが何をしたいかを考えるためのワークショップを実施した。「1 年後にになりたい自分」をテーマに、チームごとにディスカッションをした後、個々にプレゼンテーションを行った。
- h. 3 月スプリング・プログラム 2022 2022年3月23日～25日(沖縄県)
エンデバー2021、ジャパン未来スカラーシップ・プログラム 2021、ジャパン未来フェローシップ・プログラム 2021 参加者および、エンデバー2022、ジャパン未来スカラーシップ・プログラム 2022、インターンシップ・プログラム 2022※の参加者全員を対象に、沖縄県にて 3 泊 4 日の対面プログラムを実施した。(※2022 年度はフェローシップ・プログラムの実施は行わず、インターンシップ・プログラムを実施することとし、4 名のインターン生を迎え入れた。) オンラインでのプログラムが中心となった 21 年度の学生がリーダーとなり、新年度の学生をリードし、「社会におけるダイバーシティ」のテーマについてフィールドワーク、現地大学院生を交えたディスカッション、最終日には提言発表を行った。自然体験では琉球村訪問やシュノーケリングなど、沖縄の歴史や魅力を満喫し、学生同士の親睦を深めた。

2. 主要な事業の実施状況

(年間奨学事業)

事業名	対象者	実施内容	人数	支出額 (円)
エンデバー 2021	児童養護施設などの社会的養護の施設に暮らしている、または里親家庭に暮らしている高校生（2021年度に2年次、3年次に在籍）	全国を対象とした告知により公募を行い、書類選考、面接選考により、2021年度の参加者の選抜を実施	13名	614,890
ジャパン未来 スカラシップ・ プログラム2021	2021年度に、大学・短大・専門学校に新たに進学する者で、及び、下記条件のいずれかを満たす者。 ・保護者が死亡 ・単親家庭である ・児童養護施設などの社会的養護の施設に暮らしている ・里親家庭に暮らしている ・生活保護受給世帯に暮らしている	全国を対象とした告知を行い、書類選考、面接選考により、2021年度の参加者の選抜を実施	7名	2,208,333

(リーダーシップ・プログラム事業)

事業名	日時	開催場所	対象者	人数	内容	支出額 (円)
10周年記念事業 10周年記念動画作成 10周年記念誌作成	2021年3月 ～6月	東京都 ・宮城県			2011年6月1日ビヨンドトゥモロー設立以来、2021年6月1日で10周年を迎えるのを機に、10周年記念誌と動画を作成。	2,234,972
対面プログラム (サマープログラム2021)	2021年8月 20日～22日	東京都	エンデバー2021参加者 ジャパン未来スカラシッププログラム2021参加者 フェロシップ2021参加者	6名 7名 2名	変化とレジリエンスをテーマにコロナ対策に万全を期した上で、国立オリンピックセンターにて対面プログラムを開催。出席を辞退したものに対しても、オンラインで同時中継し、ハイブリットなプログラムを実現。	3,995,194
オンラインプログラム (5月スプリングプログラム) (6月、7月、9月、10月、 11月、12月、1月、2月 オンラインプログラム) (3月クロージング) (3月オリエンテーション)	2021年3月 ～2022年3月	オンライン	エンデバー2021参加者 ジャパン未来スカラシップ・プログラム2021参加者 フェロシップ2021参加者 エンデバー2022参加者 ジャパン未来スカラシップ・プログラム2022参加者	46名	参加者が日本全国各地に離れているビヨンドトゥモローにおいては、対面でのプログラムを実施することは都道府県を越えての移動を伴うこととなり、新型コロナウイルス感染拡大リスクを鑑みると従来のような対面での開催は困難である。その為、オンラインでの活動を活性化させ、例年であれば年に3～4回しか会えない仲間とより高い頻度で知り合い、たくさんの気づきを得られるよう、月次のオンラインプログラムを設計。	782,692
対面プログラム (沖縄スプリングプログラム 2022)	2022年3月 22日～25日	沖縄県	エンデバー2021参加者 ジャパン未来スカラシップ・プログラム2020参加者 フェロシップ2021参加者 エンデバー2022参加者 ジャパン未来スカラシップ・プログラム2022参加者	33名	理想のダイバーシティ実現に向けてをテーマに、コロナ対策に万全を期した上で沖縄県に全国の奨学生を集め、対面プログラムを実施。事務局員、学生サポーター、現地参加者を含めると50人超となり、コロナ禍後最大の対面プログラムとなった。	10,335,363 2022年4月・5月に請求が繰り越された金額は、808,668円